



凶星

言われた瞬間、
返事より先に、身体が止まる。

まばたきが遅れる。
息だけが、浅くなる。

否定の言葉を探しているのに、
舌が動かない。

理由ではなく、
位置が動く。

胸の奥で、
針が一本だけ真っ直ぐになる。

別の人。
別の話。
別の場面。

それでも、同じところで止まる。

怒りの形も、
涙の形も変わるのに、

止まる場所だけは変わらない。

凶星は、
心に触れない。

そこだ。

そこに、触れられる。

怒りは、遅れて来る。
涙も、遅れて来る。

どちらも、守るために来る。

声が強くなるほど、
静けさが増える。

その静けさが、
いちばん痛い。

まだ、鳴っている。